

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第13回 理事会議事録

令和4年1月24日(月)19:45～21:30

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、田中信弘、筑田博隆、
千葉一裕、根尾昌志、西田康太郎、長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

※ 会議はweb会議で行われた。

理事長挨拶

松山理事長が、評議員選考員会に続き定刻を早める旨を全員に確認し、会議の開始を宣言した。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承知し、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より:会員審査(12月分)

12月の入退会について全員を承認した。

11月JOAメンバーシップ委員会で除名審議のあった会員について、12月JOA理事会で除名処分候補者の手続きを進めることが承認された。JSSRとしてはJOAの5月社員総会の決議を待って、同様の処分に結論づけるように進める。

3. JSR 編集委員会より:学術集会アプリ担当会社決定の件

12月23日にJSR編集委員会の中で、学術集会アプリ担当希望3社(マイス・ワン、杏林舎、大村印刷)によるプレゼンを聞いたうえで、実際に委員がアプリを使ってみて採点した。各社の大項目、小項目の点数を示し、委員会としては、費用が他2社より格段にかかる点が許容されれば、マイス・ワンに決定したい。

質疑応答や議論の末、2023年のJSSR学術集会のアプリ担当会社は委員会の推薦通りマイス・ワンとすることを一同承認した。これは永続する決定ではなく、適宜見直しを図ることも確認した。

4. プログラムアンケート依頼の件:第96回日本整形外科学会学術総会

日整会からの依頼を受け、大鳥理事、古矢先生、波呂理事、山田理事より案が提出された。JSSRとして日整会へ全ての案を提出することを一同承認した。

5. ヒストリアン委員会より:JSSR50年記念誌の発刊について

JSSR50年記念誌の発刊を検討するにあたり、以下の3項目について決議した。

- 50年記念誌の発刊年について、2024年が50周年にあたるので、2024年までの内容を含む記念誌を2025年に発刊する。
- アーカイブ用サーバーについて、サーバー利用の必要性があるDB委員会とヒストリアン委員会で共同して信頼性の高いサーバー業者を選考する。
- 事務・編集担当の雇用形態について、他の委員会と同様、担当大学が直接雇用し、JSSRに費用を請求する。

6.その他

特になし

審議・報告事項

1. 社会保険等システム検討委員会報告

- Grafton DBM 3種について、全国的に査定が入っているため、Graftonと移植骨の併用を促し、適正な形状と長さ(量)を選択するようこの通達文を学会から一斉メールで発信予定である。今後、適正量の指標を全審会と協議し、再度学会員へメールで注意喚起を行いたい。
- 2024年度新規(5項目), 改正要望(8項目), 材料(3項目)の提案については、1月21日の日本脊椎外科学会(NSJ)との連絡会議にて、JSSRとNSJ合同で要望を出すことを決定した。
- 今後の課題として、ロボット手術支援加算を、新技術評価検証委員会と連携しての試案作成も視野に入れたい。

2. 脊椎関連学会連携促進委員会

1月12日に、第4回の脊椎関連学会連携促進委員会が行われた。

- 現状では秋の学術集会の統合は次のように進んでいる。
 1. 2025年合同開催予定(4学会):
日本脊椎前方側方進入手術学会(JALAS)、日本脊椎インストゥルメンテーション学会、日本成人脊柱変形学会、日本側弯症学会
 2. 上記前向きに検討中:日本低侵襲脊椎外科学会(JASMISS)
 3. 2026年以降に検討:日本腰痛学会
 4. 同時開催予定なし:最小侵襲脊椎治療学会(MIST)
 5. JOA基礎学会と同時期開催予定:Biospine Japan
- 集客力向上のためにも、JSSR本会でしか受講できない指導医講習や新技術のハンズオンなどを付与することなど、JSSRからのバックアップを依頼された。
- 早めにコンベンション業者を決めて、一社に全運営を依頼する必要がある。
- 学術集会連携で先行している日本消化器関連学会機構からの情報も得る。
- 複数の学会での合同開催というスタンスで、各学会の独自性は会場を分けることで保たれる。今後、時間帯や会場の割り振り、プログラムの検討などを行う。

3. 国際委員会報告（伊東理事）

- NASSの中で国際的な展開をしているNASSiとJSSRの間で、昨年12月より数度打合せを重ねてきた。NASSiとしてはJSSRと30年に亘って続けてきたSAS以上のコラボレーションを行っていくことを希望している。双方の利益となるような、単年度および数年単位のアクティビティをキーとして世界に展開していきたい。
- その第一段階としてNASSiは、NASSジャーナルにNASSiが発信するInternational focus issueを作りたいと考えている。その5人のGuest editorの1人として中村雅也委員長が招待され、日本の得意分野の情報発信を期待されている。中村委員長としてはJSSRからのバックアップを前提に受諾の意向あり、一同受諾に賛同した。
- Spine20が8月4・5日にバリにて行われるときに伊東理事が参加し、対面で話を詰める予定である。

4. データベース委員会報告

昨年11月の1ヶ月分の合併症の症例登録を各施設へお願いしているが、登録方法についての問い合わせが多いため、1月末の締切を2月中旬に延期した。

DB委員会としては4月の新技術も含めたDB統合に向けて、必要な項目の改修を進めていくことと、実際にデータを入力するデータマネージャーにどのように働きかけていくかを検討していきたい。

また、前回理事会でも検討した「JSISとのDB統合の際の重複項目」については、重複項目削減に向けて双方の学会の理事長同士の話し合いのもと正式な協定書(案)を作成した。協定書(案)には、システム構築にかかる費用の折半などについて記されており、近日JSISとの覚書を交わす予定である。

松山理事長：本登録が開始された場合に現在の1万件の登録が年間12万件におよぶことを念頭に取り組んでいきたい。

5. 診断評価等基準委員会報告

複数のプロジェクトを進めていたが症例の集まりが悪く、てこ入れの必要がある。既存の継続プロジェクトにとどまらず、新たなプロジェクトの話もでていく。

松山理事長：腰痛学会の紺野理事長から、JSSRが主体となって合同でプロジェクトを進めてほしいとの要望が届いている。

6. プロジェクト委員会報告

どのプロジェクトも順調に症例登録数が増えている。昨年までの問題として施設ごとの温度差があったが、海渡委員長より一施設のノルマを50例とすることが伝えられ、登録状況が好転している。

7. SSRR(英文誌)編集委員会報告

理事会で承認されたSSRRのアワードの件について、1月27日の委員会全体会議で話し合う予定である。

8. JSR編集委員会報告

- 第3回JSR 優秀論文賞：

今年発行された『JSR:JSSR特集号(1-2合併号・5・9号)』の原著論文の中から、JSR 委員(担当理事、アドバイザーを除く)が採点し、2名が選ばれた。

【結果】

- 1 位 山崎隆志先生(藤枝駅前クリニック):腰椎変性疾患の後方手術における医原性神経断裂からの学び
- 2 位 長本行隆先生(大阪労災病院整形外科):成人脊柱変形手術の患者満足度を規定する因子は何か?

● JSR配信NLについてのアンケート:

JSR配信NLアンケートによると、開封率は会員数の1割に満たず、工夫をしていきたい。また、JSRの件とは離れるが、データベース登録において「各施設は情報の提供ばかりで、情報の活用方法が周知されていない」という意見は、重要なものと受け止めたい。

9. 広報委員会報告

ホームページの更新について

- ヒストリアン委員会より要望のあった日本脊椎脊髄病学会の歴史について「学会の歴史」のタイムラインの下に歴代会長リストを掲載予定である。
- 関連学会告知として「AMED 研究公正高度化モデル開発支援事業 開発成果紹介シンポジウム」を掲載する。
- 日本整形外科学会の患者向けパンフレットについては、田中理事、藤原委員長で取りまとめ委員会で承認後に日整会へ報告予定である。

10. 指導医制度委員会報告

- 2021年度の指導医継続申請、新規申請について、12月21日に行われた指導医制度委員会の審査結果を審議いただきたい。

名誉申請者: 36名合格

継続申請者: 687名合格

猶予申請者: 10名合格、3名不合格(申請理由が不相当)

新規申請者: 111名合格

また、申請後、何度督促しても審査料を振込まない会員1名も不合格とした。

以上の指導医制度委員会の報告を、一同承認した。

- 2022年4月から始まるJSSR-DBの登録症例を、指導医申請の際にどの程度含むかについて議論した。

DBを充実させるためとはいえ、地方の病院などでは症例登録率の達成が指導医申請の足かせとなるとの意見があり、引き続き議論していきたい。

筑田理事: 学会認定の指導医申請にDBへの症例登録を紐づける方向性については理事会ですでに承認されたので、今年4月のJSSR-DB年間運用開始の際に混乱をきたさないよう会員へ周知していきたい。

松山理事長: 指導医の新規申請については別だが、継続の指導医についてはDB登録にも参加してもらいたい。評議員の申請にも次回から要件としてDB登録を盛り込みたい。

11.新技術評価検証委員会報告

- 各WGの現状報告
 1. XLIF:症例数は順調に伸びている。
 2. 頚椎人工椎間板WG:2椎間も4月からはJOANR 移行することで承認された。ガイドライン修正についてはNSJと協議していく。
 3. ACR・胸椎XLIFWG:プロクター施設での2年経過52 例の調査内容が共有されたため、条件を付けて一般での使用も認めていく。
 4. OLIF51WG:JSSR2021 で初の講習会実施後10 名がファカルティ施設での手術見学を修了しており、大きな合併症は起きていない。データベース移行については引き続きWG で検討する。
 5. 椎体形成WG:現状に即した添付文書の改訂中である。
 6. 仙腸関節固定術:ガイドライン(案)を作成中である。
 7. セメント注入型スクリューWG:106例まで症例数は増加したが、合併症の喚起について学会の使用基準への追記を検討している。理事会資料で示した改定部分が承認されればHPのガイドラインに加える。
- 新技術に関する論文化と学会発表のルールに関して
プロクター施設の独自の判断で、自院のデータのみで抄録等を提出するケースが散見された。プロクター施設のみで許可試用されている新技術では、委員会内で内容や著者等も含め検討してから発表することとする。

12.専門医制度委員会報告

- 専門医機構(以下、機構)のレビューシートをNSJと協力して準備し、1月中旬にサブスペシャリティ領域連絡協議会(日整会)へ提出した。
- 「機構が考える指導医」についてモデルケースが示されたが、JSSR、NSJにそれぞれの指導医資格がすでに存在しており、考え方も違うので、機構の考える体制にはすぐには移行しないとの認識である。
- 専門医の機関研修施設アンケートについて、未申請の30施設に連絡を取り、それでも未回答の23施設は継続なしとした。応募のあった234施設に関しては委員会でも内容を確認して委員会でも申請内容の審査を行っている。

13. その他の委員会報告

特になし

14.その他

・予算申請について

予算申請書の提出を各委員会にお願いしたい。また、大きな事業を行う際には計画書を添えて予算申請を出していただきたい。

・名誉会員推薦 声掛け

2月の理事会で審議できるよう、推薦があれば期日までに申請してほしい。

・脳波筋電図末梢神経伝導の専門医について

日本臨床神経生理学会が、脳波筋電図末梢神経伝導専門医を作る方向で動くことが先日の日整会理事会で話題となった。その立ち上げに、JSSRと手外科学会から代表を出してほしいという動きがある。書面での正式依頼があれば対応を検討したい。今後も注視していく。

次回理事会 2022年2月21日 20時から

以上

令和4年1月24日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭